

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	岸野伊之増様共同住宅新築工事	階数	地上7F
建設地	相模原市中央区富士見3丁目60-3	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	68人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年2月 予定	評価の実施日	2015年1月8日
敷地面積	1,589㎡	作成者	大東建託株式会社
建築面積	530㎡	確認日	2015年2月1日
延床面積	2,304㎡	確認者	大東建託株式会社



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.7** ★★☆☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★ B: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

① 参照値	100%
② 建築物の取組み	94%
③ 上記+②以外の	94%
④ 上記+	94%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 2.5

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

音環境	3.0
温熱環境	2.8
光・視環境	3.1
空気質環境	3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.5

機能性	2.0
耐用性	3.0
対応性	2.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.0

生物環境	1.0
まちなみ	2.0
地域性・	3.0

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 2.9

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

建物の	3.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.2
効率的	N.A.

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.5

水資源	2.2
非再生材料の	2.4
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

地球温暖化	3.2
地域環境	2.8
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	敷地内の外構部をできるだけ緑化し、環境に配慮した設計としている。	
その他		
Q1 室内環境	外皮性能については日本住宅性能表示基準「省エネルギー対策等級」における等級3に相当する性能とし、建物の熱負荷抑制に配慮した。	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	内装仕上げに防汚性の高い建材を使用している。階高を2.8m以上としている。可能な限り配管の系統を区分し、災害時の使用不能部分の低減を図っている。	Q3 室外環境(敷地内)
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内に緑地および中高木を設けることにより、敷地内に良好な緑地環境を創出している。	
LR1 エネルギー	共用部に適切な照明器具を採用し、無駄のないエネルギー使用をしている。	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	LCCO <sub>2</sub> 排出量を参照値より約6%低減。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される